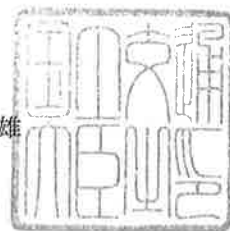


# 認定書

国住指第1531号  
平成 17年 10月 5日

日鐵建材工業株式会社  
代表取締役社長 小山 巖 様

国土交通大臣 北側 一雄



下記の構造方法又は建築材料については、建築基準法第68条の26第1項(同法第88条第1項において準用する場合を含む。)の規定に基づき、同法第2条第七号並びに同法施行令第107条第一号及び第三号(屋根:各30分間)の規定に適合するものであることを認める。

## 記

1. 認定番号  
FP030RF-0123
2. 認定をした構造方法又は建築材料の名称  
デッキプレート屋根
3. 認定をした構造方法又は建築材料の内容  
別添の通り

(注意)この認定書は、大切に保存しておいてください。

(別添)

1. 構造名

デッキプレート屋根

2. 寸法及び形状等

(寸法単位：mm)

項目	申請構造
断面形状	リブ状
母屋間隔	5000 以下 (単純スパン, 連続スパン)

3. 材料構成

1) 主構成材料

(寸法単位：mm)

項目	申請構造
①荷重支持部材	<p>デッキプレート</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・規格 JIS G 3352 の SDP1T, SDP1TG, SDP2, SDP2G, SDP3</li><li>・厚さ 1.0~1.6</li><li>・山高さ <math>120_{\pm 1.5}</math></li><li>・働き幅 <math>600_{-2\sim+8}</math></li><li>・山間隔 300</li></ul> <p>デッキプレートの断面形状</p> <p>600</p> <p>142 158</p> <p>53.5 35 53.5</p> <p>65.5 200 40 20 40 100 45</p> <p>30</p> <p>120</p> <p>厚さ 1.0~1.6</p>

2) 副構成材料

(寸法単位：mm)

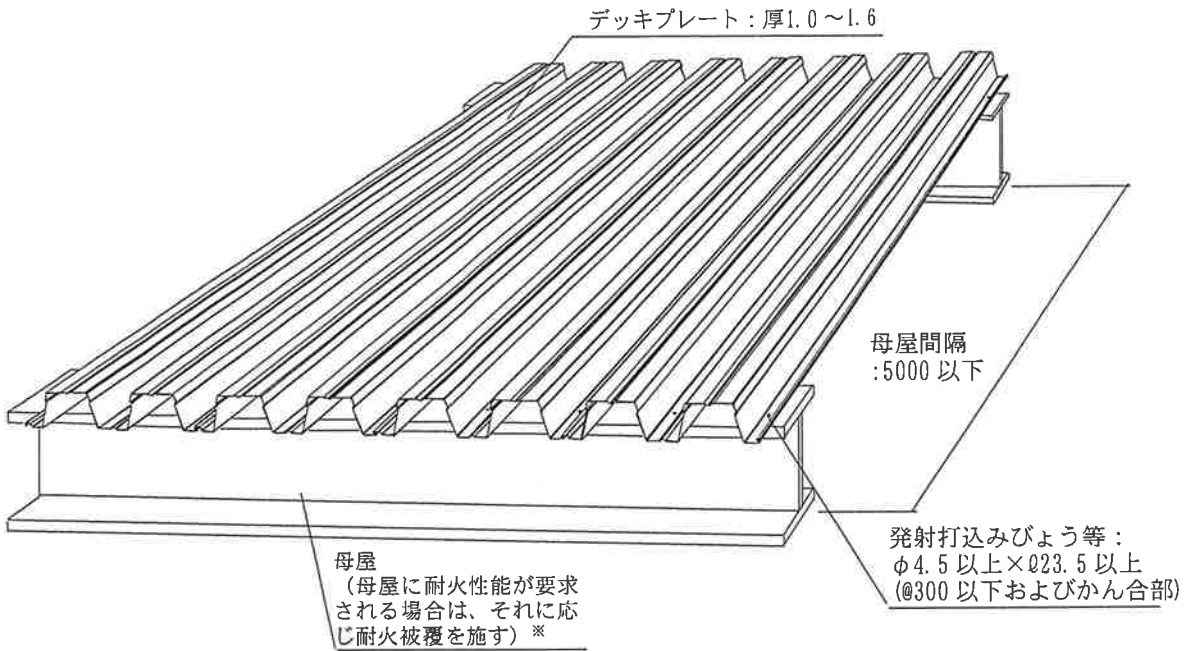
項目	申請構造
①荷重支持部材と母屋の接合部	<p>(1)~(3)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>(1) 発射打込みびょう</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・寸法 <math>\phi 4.5</math> 以上<math>\times</math><math>\phi 23.5</math> 以上</li><li>・間隔 300 以下及びかん合部</li></ul> <p>(2) ドリリングタッピンねじ</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・寸法 <math>\phi 5.0</math> 以上<math>\times</math><math>\phi 16</math> 以上</li><li>・間隔 300 以下及びかん合部</li></ul> <p>(3) 焼抜き栓溶接</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・寸法 溶接径 18 以上</li><li>・間隔 300 以下及びかん合部</li></ul>

(別添-1)

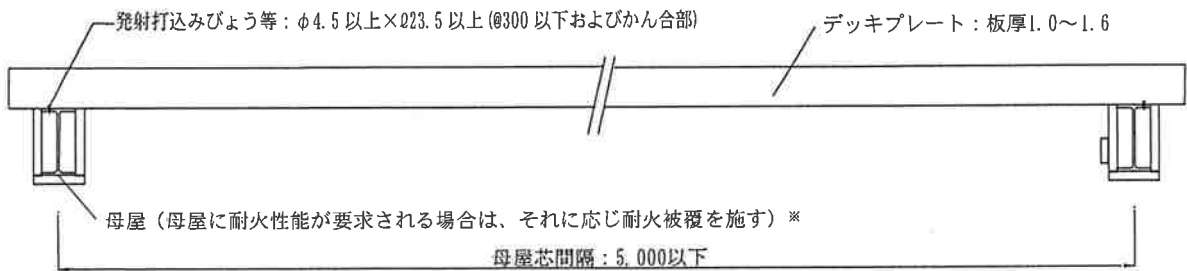
4. 構造説明図

[1] 透視図

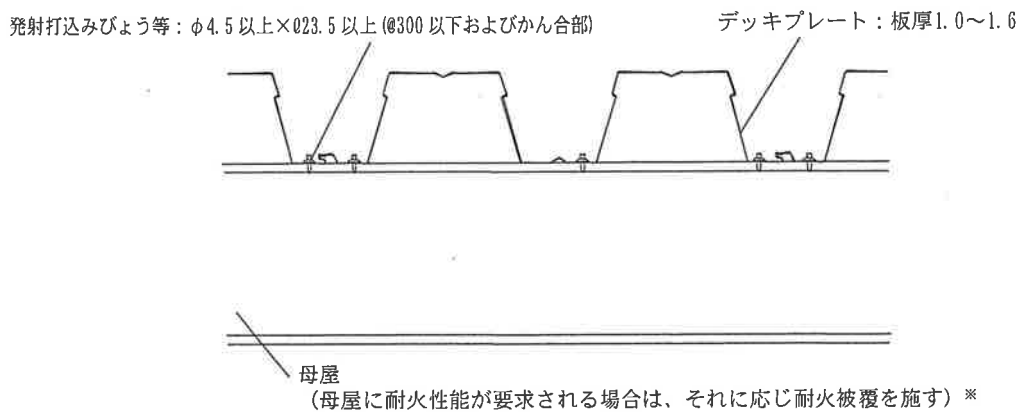
(寸法単位：mm)



[2] デッキスパン方向断面図



[3] デッキ幅方向断面図



注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

※：本評価内容に含まない

## 5. 施工方法等

### <施工図>

4. 構造説明図と同じ

### <施工手順>

#### 1) デッキプレートの敷込み

デッキプレートを施工する母屋芯相互の間隔が 5000mm 以下であることを確認する。デッキプレートを墨出し線に合わせて母屋に配置し、デッキプレートを母屋に溶接等で仮止めする。

#### 2) デッキプレートと母屋との接合

デッキプレートと母屋とは、発射打込みびょう、ドリリングタッピンねじ、または焼抜き栓溶接で接合する。接合方法は、平成 14 年国土交通省告示 326 号の規定または「鉄骨工事技術指針 工事現場施工編」（日本建築学会）によるものとする。